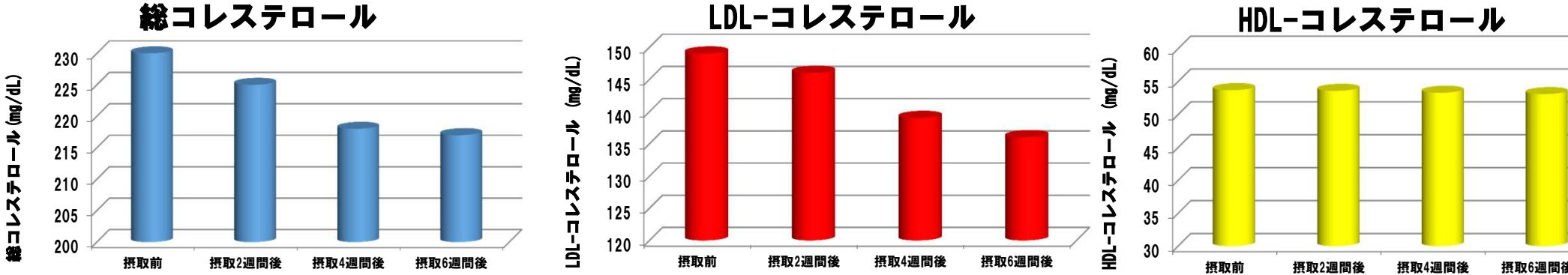


【研究報告】

ラムナン硫酸によるコレステロール低下作用

脂質異常症(高脂血症)とは、
血液中のLDLコレステロールや総コレステロールが高すぎたり、HDLコレステロールが少なくなる病気です。脂質異常症は動脈硬化の進行を早め、心筋梗塞や脳卒中などの病気の原因となる事があります。
ラムナン硫酸の摂取により血液中の脂質にどのような影響を与えるか検討を行いました。

検討方法
対象被験者は、肝障害または腎障害の疑いがなく、脂質系への影響が疑われる薬物およびサプリメントを服用していない男性60名から投与開始1週間前に採血を行い、血中コレステロール値の高めの16名を選出した。
6週間ラムナン硫酸を毎朝食後30分以内に3g摂取させた。採血は摂取開始日摂取前、摂取開始2、4および6週目に行った。これらの血液を用いて血液中の脂質測定を行った。



ラムナン硫酸が血液中の脂質にどのような影響を与えるか人による臨床実験を行いました。ラムナン硫酸を6週間飲み続けた結果、血清総コレステロール及び悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが時間依存的に低下し、摂取6週間後では摂取前と比較しての有意な低下が認められました。しかし、ラムナン硫酸を飲み続けても善玉コレステロールであるHDLコレステロールには変化を与えませんでした。

(データ出典元 新薬と臨床 *J.New Rem & Clin. Vol.55 No.11 2006 p.95-102*
西川教授共同研究より)